

これまでの企画等専門調査会での意見

第 8 回企画等専門調査会（平成 25 年 11 月 28 日開催）
第 9 回企画等専門調査会（平成 26 年 1 月 31 日開催）

1 リスクコミュニケーション全般論

（全般）

- ・ 食品安全委員会が行った評価の情報を、いかに国民に届けるかということが、非常に重要なことで、最終的には消費者が正しい情報を理解して納得して選択できるようにならないといけない。
- ・ これまでリスクコミュニケーションに取り組んできて、リスクコミュニケーションという言葉は随分浸透してきたが、実際、それがどのように機能しているのかというのがなかなか見えにくいと思っている。
- ・ 関心はあるがあまり知識がないという方に、どのような情報を、どのように提供したら正しく理解し行動してもらえるのかということを具体的に考えていく必要があると思う。

（消費者教育）

- ・ 消費者に正しく理解してもらうのが大命題であり、リスクコミュニケーションを通じて消費者が教育されることはあるだろうが、リスクコミュニケーションは消費者教育とは別物と考えるべき。
- ・ 食品の安全は、リスクコミュニケーションによって教育するというよりも、消費者教育という範疇で学ぶようにしていくべきと考える。

（リスク評価書）

- ・ 現在の食品安全委員会のリスク評価書は、リスクマネジメントを行う事業者にとって非常に役に立つものであるが、これが一般の消費者の役に立つものにするためには、もう一段の工夫が必要と思っている。

2 情報発信

（全般）

- ・ 食品の安全に関わる正しい情報が一般の消費者に届いて納得してもらうには信頼関係も必要だし、一朝一夕にできるものではないだろうが、リスクコミュニケーションの取組として、e-マガジンの読み物版とか連続講座とか、消費者に科学的知見を届けようとする努力をしており、去年よりも前進していると評価する。
- ・ ここに行けば、今話題のものについて正しい情報にアクセスできるというプラットフォームみたいなものが必要ではないか。
- ・ 地域住民に伝えるには都道府県を活用した方がよい。

(機動的な発信)

- ・トランス脂肪酸についてはF D Aの情報が報道された段階で、HP等で情報発信していたが、もっと積極的に対応しても良かったのではないか。

(メルマガの読み物版)

- ・メルマガの読み物版はもっと広めていくべき。

(英文ジャーナル)

- ・英文電子ジャーナルをつくったが、非常によい活動。これからも積極的に海外に情報発信してもらいたい。

3 情報把握・分析

- ・食品安全委員会として、正しい情報を発信し続けるのは非常に大事で着実に進んでいるとは思いますが、メディア情報はどのようなところから収集して蓄積しているのか。提供している情報の内容と、実際に流布されている情報の内容の差異について分析してみるのも必要なのではないか。

4 ネガティブ情報への対応

- ・これまでのリスクコミュニケーションの活動をみると、正しい情報をより多くの消費者に伝えるということに活動が特化しており、ネガティブ情報に対する対応について十分でないのではないか。ポジティブ情報提供のみでは、対処療法に過ぎない。ネガティブ情報を直接叩くことは難しいにしろ、情報の把握や流通プロセスの解明、分析といったことは行うべき。
- ・ネガティブ情報が流れる前に先手を打って正しい情報を流すことも有効。そのためには、日頃から記者とのつながりが重要。ネガティブ情報にはどのように対処するのか、日頃のモニタリングと緊急時の対応の体制、そのための準備をきちんと整備しておく必要がある。
- ・ネガティブ情報は以前に比べて減ってきているかもしれないが、レベルの低いものも含めてまだまだたくさんある。ネガティブ情報の内容や発信源は把握すべき。

5 リスクコミュニケーションのあり方に関する勉強会関係

(全般)

- ・これまでの取組をしっかりと総括して、今後に向けて皆で智恵を出し合って行けたらよいのではないかと思う。

(戦略)

- ・リスクコミュニケーションの戦略論については、一回じっくり議論できる場があるとよい。
- ・リスクコミュニケーションには、手法も大事であるが、戦略が最も重要。

勉強会では、改善の方向性にとどまらず、食品安全委員会として具体的なリスクコミュニケーションの戦略を議論したらよいのではと考える。

(成果のイメージ)

- ・消費者のみならず事業者も含めたステークホルダー間での議論を食品安全委員会としてどのような手法でどのように進めていくのか、本勉強会で議論できたらいいのではないかと思う。
- ・いろいろリスクコミュニケーションに取り組んできているが、一般の消費者や事業者にもっと浸透しなければならないと思っている。この勉強会では、実際に現場で使えるような具体的な成果が議論されればよいと思う。

(討議に含める事項)

- ・この勉強会では、どこまでを議論するのかゴールをイメージして取り組んだ方がよい。例えば、誤った情報への対応をどうするかといった具体的なことについての対処方法についても議論できればよい。
- ・本勉強会では、フードテロやクライシスコミュニケーションについても議論していくこととなるのか。平常時のリスクコミュニケーションと対応方法も異なってくると思うが、その点についても議論できたらよいのではないかと思う。
- ・自分から積極的に情報を収集しない人たちに対して、どのように周知するのかということも議論する必要があるのではないか。

(対象とする者等)

- ・勉強会の成果の受け手として、一般の消費者を対象に考えるのか、リスクマネジメントを行っている事業者を対象に考えるのか、予めよく考えておいた方がよい。
- ・リスク評価者としての立場はあるだろうが、この勉強会では、消費者にも役に立つリスクコミュニケーションの議論をしてもらいたい。
- ・リスクマネジメントを行っている事業者も勉強会のメンバーに加えてもらいたい。

6 その他

- ・連続講座を生産者向けに実施してもらいたい。
- ・連続講座の内容は、DVDにして地域で使えるようにしたらよいのではないか。